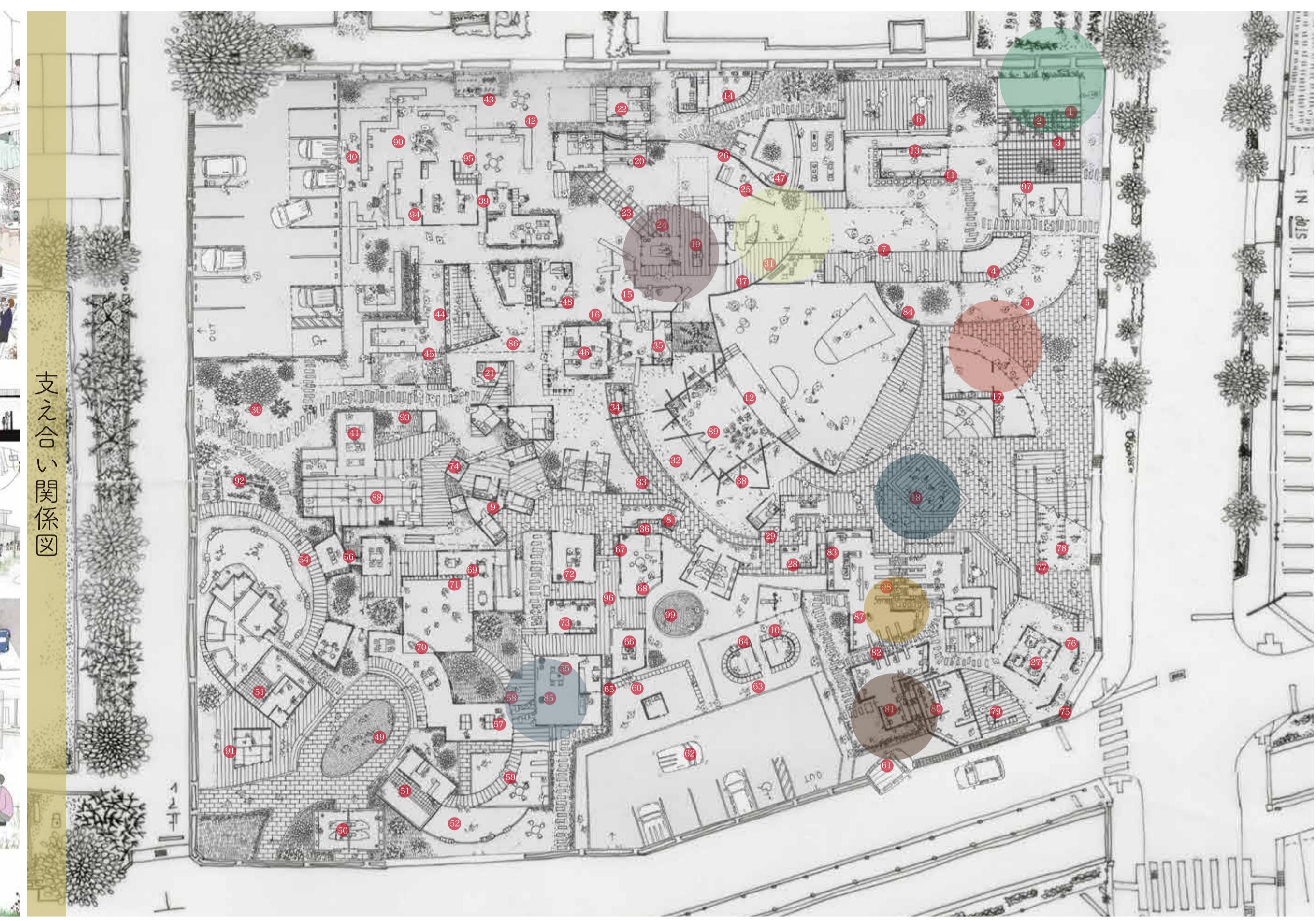




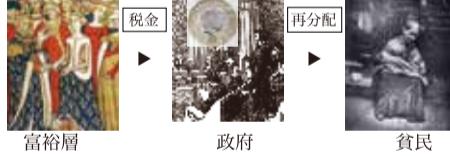
99の
複
支
え
合
い
の
物
語
る



支え合い関係図

福祉というシステムの起源

福祉のシステムの起源は、1601年にイギリスで行われた教貧法によるものである。教貧法は、富裕層が政府に税金を認め、政府が貧民に再分配するという国家の救済を定めた法律である。



特定の人間から特定の人間へ

教貧法のように、現在の福祉施設や介護施設は、体の悪い弱者や子供といった特定の人間が利用するものがほとんどである。しかし、実際は私たちのような健常者も当たり前のように福祉の恩恵を受けている。

例えば、みなが平等に医療を受けられ、安心して暮らすための保険制度もその一つである。

「福祉」から「複支」へ

福祉の本質とは、「誰かが誰かを助けようとする行為」だと考えると、「日常の中にある人ととの支え合いの行動の集積」が福祉だと言えるのではないだろうか。私たちは「特定の誰かへ」の切り離された「福祉」ではなく、「複数の人々の支え合い」を新たな「複支」と定義する。

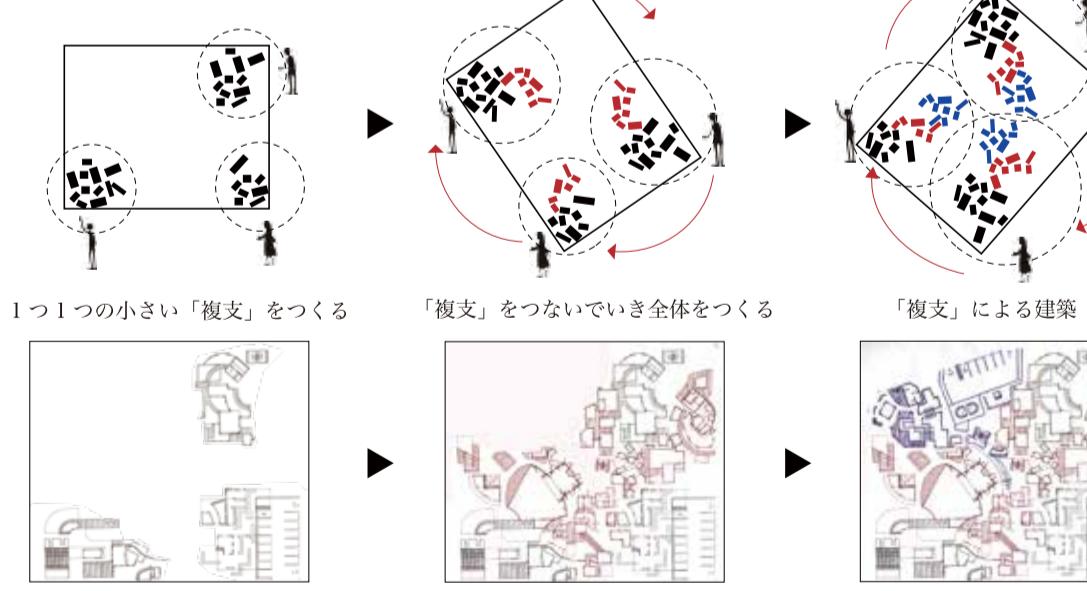
99個の支え合いの構築

私たちはある敷地内に99個の日常的な「複支」をつくり、互いに有機的な関係を持った人々の居場所と支え合いの関係を提案する。

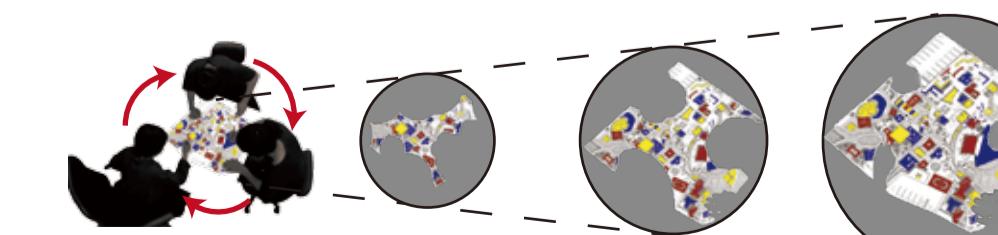


設計手法

彼らは、3人のグループで本設計に取り組み、複支を形成するための新たな設計手法（トライアンドエラー論）を提唱した。



各々が敷地周辺の要素を頼りに、敷地外周部から敷地中央に向かって設計を進め、互いの設計を交換しながら上書き、消去、繰り返すというルールを課すことで、敷地内に99個の支え合いをつくった。



この設計手法は3人がえて、バラバラに設計を進め、トライエラーをくりかえすことで、1人の設計者の恣意性が消え、意図しない場所や隙間に人々の居場所が生まれる。

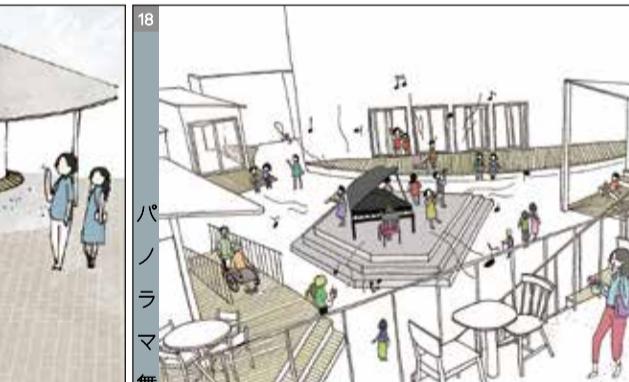
そんな、多種多様な人の居場所が敷地内に集積することで、私たちの考える複支は完成する。



01
多世代の育て
愛
敷地周辺にある、隣の老人ホームの畑を大きくしました。トマトやナス、キュウリなどの鮮やかな野菜は、高齢者と子供や若者の協力の賜物ですね。これからは、もっとたくさんの野菜をみんなで力を合わせて収穫できそうです。



04
目
配
り
、
気
配
り
、
思
い
や
おじいちゃん、おばあちゃんが子供を見守ってくれる場所。でも、走り回る子供たちを見守るのは大変なはず。そんな時、2つのボリューム同士の壁を大きく湾曲させ、ガラス張りにすることで、近くを歩く人の目にとまるはず！あっ！と、すぐさま手を差し伸べてくれることでしょう。



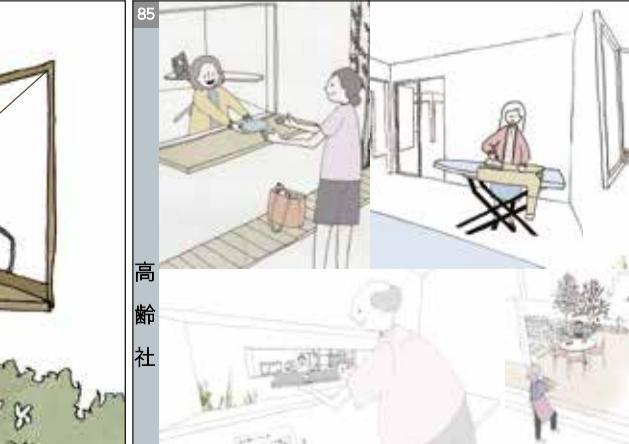
18
バ
ノ
ラ
マ
舞
台
ここで舞台ステージは、地域住民の日々の演奏会場、発表会所としての子供経済が存在します。最近、腰が痛い、背中が張っているそんなあなた。ここでは、子供が軽いマッサージをしててくれる場所です。子供はマッサージをする代わりに、宿題を見てもらったり、少しのお小遣いをもらったり。win-winですね。



19
子
供
経
済
マ
ッ
サ
ここでは、子供も大人と同じように人を支えます。子供の働く場所としての子供経済が存在します。最近、腰が痛い、背中が張っているそんなあなた。ここでは、子供が軽いマッサージをしててくれる場所です。子供はマッサージをする代わりに、宿題を見てもらったり、少しのお小遣いをもらったり。win-winですね。



31
挑
戦
上
級
者
コ
ース
ここは、高齢者を対象としたゲートボールのコースになっています。角度の振られたボリュームや円形のボリュームによって、いろんなコースを楽しめます。今日はいつもより難しい上級コースに挑戦だ。



85
高
齢
社
隣り合うボリュームの開口は同じ位置に存在します。それぞれが同時に窓を開いた時、この間には机が現れます。ここで隣の部屋の人とちょっとお話をしたり勉強を教えてもらうことができます。また、互いに窓を開けることで、隣の部屋に風が抜けるようになります。



98
通
り
棚
この道を通る人、使う人によって作られる本棚です。本棚が建物から実質外部に露出しています。そこを通る人がいなくなったら本が別の誰かの支えになるような本棚になるでしょう。